としての役割と責任について理解を深めることができるようにすること。

イ　情報技術の進歩に留意して指導すること。また，表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して，情報を適切に扱うことができるようにすること。

(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。

ア　〔指導項目〕の(1)のウについては，情報技術の進歩や情報が社会に及ぼす影響，情報に対する個人と企業の責任，個人情報と知的財産の適切な取扱いと保護の重要性などについて扱うこと。

イ　〔指導項目〕の(2)のアについては，コンピュータの基本的な機能と構成などについて扱うこと。また，ファイル管理の機能を活用する方法についても扱うこと。ウについては，ウェブページと電子メールを活用する方法，受信者の立場に立って情報を発信することの重要性及び情報の信頼性などを見極める方法について扱うこと。エについては，情報セキュリティを確保することの重要性と基礎的な方法及び情報セキュリティに関する法規の概要について扱うこと。

ウ　〔指導項目〕の(3)のイについては，適切な表の形態とグラフの種類・形態を検討し，表やグラフを用いて伝えたいことを表現する方法及び表計算ソフトウェアを活用して情報を分析し，表とグラフを作成する方法について扱うこと。ウについては，モデル化，シミュレーション及びプログラミングの基礎的な技法を用いた問題の発見と解決などについて扱うこと。

エ　〔指導項目〕の(4)のアについては，ビジネス文書を作成するための適切な文章の表現方法について扱うこと。イについては，ビジネス文書の種類とその構成及び文書作成ソフトウェアを活用して効果的なビジネス文書を作成する方法について扱うこと。

オ　〔指導項目〕の(5)のアについては，プレゼンテーションを行う際の話の構成，話し方，画像と音声の活用などについて扱うこと。イについては，目的，形態，対象，規模によるプレゼンテーションの方法の違い及びプレゼンテーションソフトウェアを活用して効果的にプレゼンテーションを行う方法について扱うこと。

第17　ソフトウェア活用

1　目　標

商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2　内　容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) 企業活動とソフトウェアの活用

ア　ソフトウェアの重要性

イ　情報通信ネットワークの導入と運用

ウ　情報資産の保護

(2) 表計算ソフトウェアの活用

ア　オペレーションズ・リサーチ

イ　情報の集計と分析

ウ　手続の自動化

(3) データベースソフトウェアの活用

ア　データベースの重要性

イ　データベースの設計

ウ　データベースの作成と操作

エ　手続の自動化

(4) 業務処理用ソフトウェアの活用

ア　仕入・販売管理ソフトウェアの活用

イ　給与計算ソフトウェアの活用

ウ　グループウェアの活用

(5) 情報システムの開発

ア　表計算ソフトウェアによる情報システムの開発

イ　データベースソフトウェアによる情報システムの開発

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。